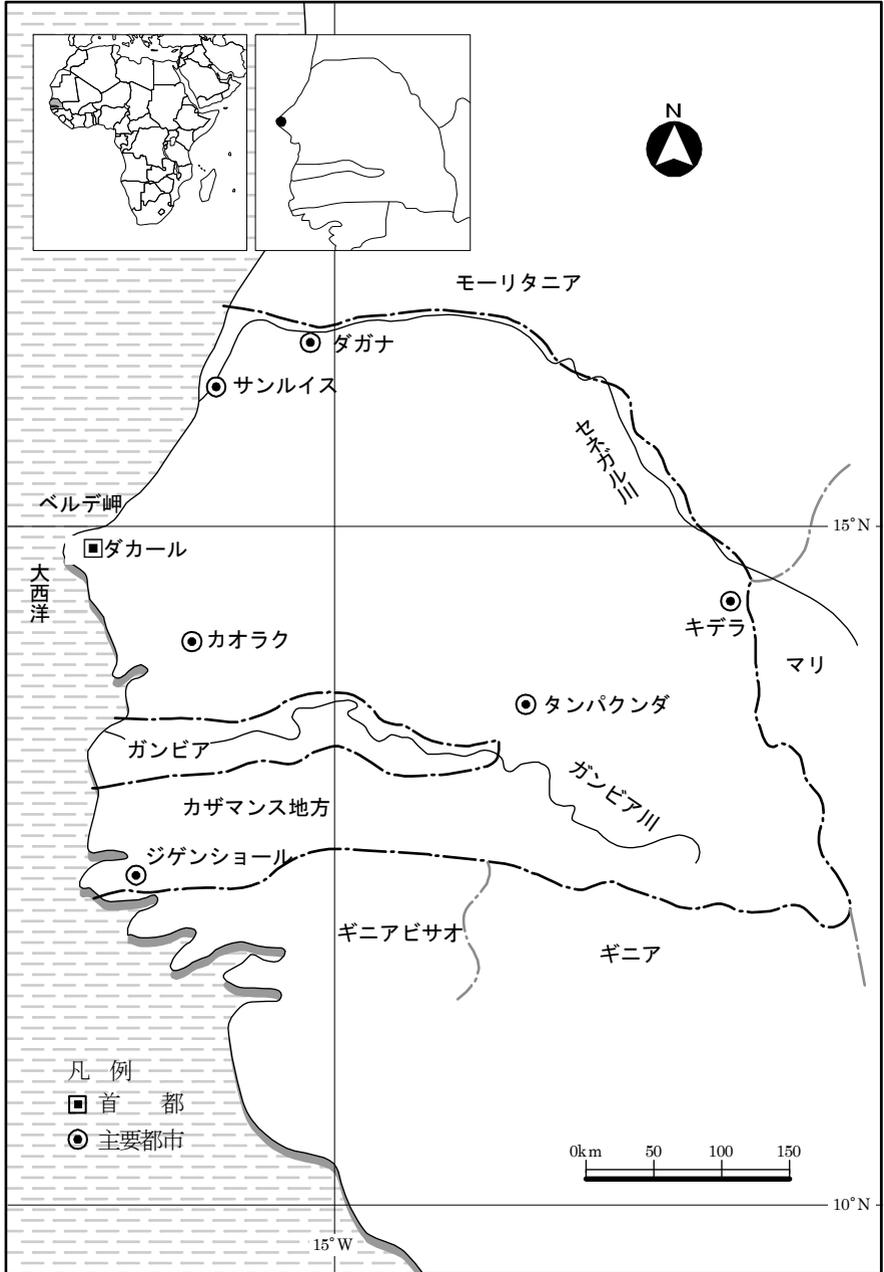


セネガル共和国



(一般指標)

国名 (英名)	セネガル共和国 (SEN : Republic of Senegal)		
国土面積 万 ha	1,967 (日本の半分強)		
人口 万人	1,310.7 人口密度 66.6人/km ² (2012年)		
首都名(英名)	ダカール (Dakar) 標高40m		
首都人口 万人	112.1 (2009年)		
主要言語	フランス語(公用語)、ウオロフ語、セレル語など		
宗教	イスラム教94%、キリスト教5%(大部分がカトリック)、 伝統信仰1%		
国連加盟年月	1960年9月 (1960年8月独立)		
通貨単位	CFAフラン 1米ドル=491.078 (2013年7月)		
国民総所得 : GNI 億米 ^{ドル}	135 (2010年)		
一人当りGNI 米 ^{ドル}	1,090 (2010年)		
主要産業	農業(落花生、あわ)、漁業(まぐろ、たこ)		
日本から輸出 億円	46.6 (2011年)		
日本の輸入 億円	20.2 (2011年)		
土地利用 万ha	耕地	391	(20.3%) (2009年現在)
	森林	851	(44.2%) (2009年現在)
	牧場・牧草地	560	(29.1%) (2009年現在)
度量衡	メートル法		
祝祭日	1月1日元旦、4月4日独立記念日、5月1日メーデー、8月15日聖母被昇天祭、11月1日万聖節、12月25日クリスマス 移動祝日 : ムハンマド誕生日、復活祭、キリスト昇天祭、聖霊降臨、ラマダン、タバスキ、イスラム新年 他		
気候	北緯 15°前後に位置し、国の南部は熱帯サバナ気候 Aw で、北部はステップ気候 BS。6~10月は雨季。11~5 月は乾季で、沿岸部はカナリヤ寒流の影響で気温が下 がり過ごしやすい。 首都ダカール(標高 100m、平均気温 23.9℃、年降水量 351mm)。		

(森林指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	8,473
森林率	%	44.0
森林変動率 (2005-2010)	%	-0.5

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	316
ha 当たり森林蓄積	m ³	37

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	464
森林面積に対する割合	%	5.0

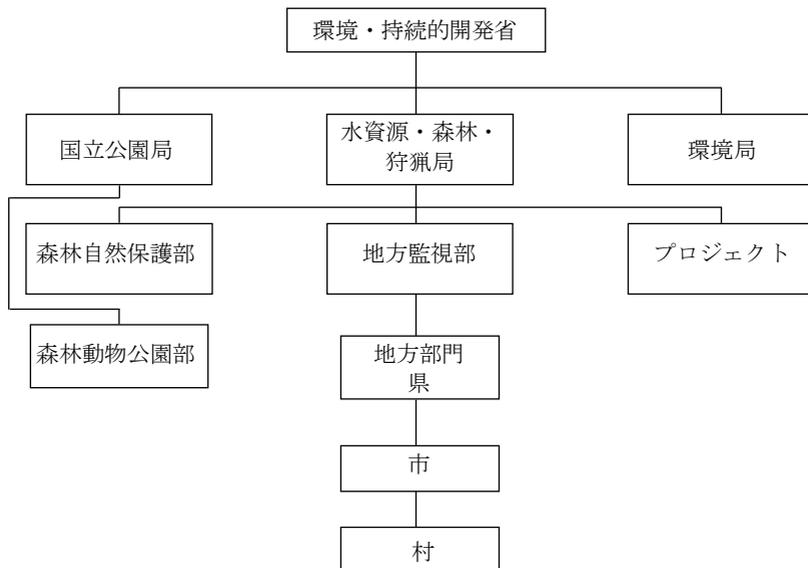
(森林所有者)

公的機関	%	100.0
民間	%	-

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	340
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-2

(森林・林業行政組織)



上記行政組織の他、セネガル農業研究場の林産物研究所は農業省の傘下にある。自然調査・環境委員会が首相の下に設立され、森林の状況等をモニターする生態モニターセンターと協力して活動している。

(森林・林業政策)

セネガルの森林政策は、「セネガル森林行動計画 (Plan d'Action Forêtier au Sénégal / PAFS) (1992 年策定) を 2005 年 4 月に改訂した「セネガル森林政策 (Politique Forêtier du Sénégal PFS)」によって定められている。

同政策では、2005 年から 2025 年までの長期展望として「森林資源と生物多様性を持続的に管理・保全することにより貧困削減に貢献し、地方分権化政策と整合性を図りながら住民のニーズを満たし、社会経済活動及び自然資源の保全との均衡を維持する。」ことを掲げ、セネガル全土を 6 つに分けた環境・地理ゾーン (Zone Eco Géographique / ZEG) 毎に開発課題及びそれに対処するための主要テーマとアクションを示している。

一方、セネガル国の森林法（1965年制定）は国家による森林資源管理を主眼に置いたものであったが、リオデジャネイロ環境サミット後の1993年、さらに地方公共団体法の制定（1996年）後の1998年に改正され、森林資源管理における住民参加と地方公共団体への管理権委譲を法的に明確にした。

（森林の現況）

西アフリカのサヘル地域に位置するセネガルにおいて、産業用として利用できる木材を採取できる森林が形成されているのは南部に限られ、国土の大半は灌木が占めるサバンナやステップに属している。そのため、産業としての林業は盛んではなく、木材は国内消費用の薪炭材として利用されることが多い。近年、人口増加による薪炭材の消費量増大に伴い、森林資源への負荷が大きな問題となっている。

（1）植生タイプや主要樹種

セネガルの自然植生は北から南へ増加する年間降水量に従い、北部のサヘル地域、中部のスーダン地域、南部のギニア地域の3つに大別される。

サヘル地域の年間降雨量は150mm～700mmであり、サヘル地域の北部は灌木ステップ、樹木ステップが占め、年間降水量300～500mmの範囲では灌木サバンナから樹木サバンナが分布する。この地域では樹高が8mを超えることは稀で、樹種はアカシア（*Acacia*）属が多くみられる。

スーダン地域では、セネガル中央および南部の3分の2を占め、年間降水量が700mm～1,000mmの地域である。主な植生として、この地域の北限付近では、*Bombax costatum*（キワタノキ）、*Combretum ellioti*、*Cordyla pinnata*、*Entada africana*、*Pterocarous erinaceus*などが見られる。その他、この地域の代表的な樹種としては、*Cassia sieberiana*、*Daniellia oliveri*（ファロ）、*Khaya senegalensis*（ドライマホガニー）、*Terminalia macroptera*等が挙げられ、アカシア属や*Combretum*属も多くみられる。なお、ティエス周辺ではロニエ（*Borassus aethiopum*、和名アフリカオオギヤシ）が多く、環境政策によって保護され安易に伐採できない樹種が多い状況下において、農村における活用可能な建築資材として重宝されている。

ギニア地域は年間降水量が1500mmを超えるセネガル南西部に位置する。この地域では、*Parinari excelsa*（ホワイトペロパ）、*Azelia africana*（アフゼリア）、*Antiaris*

africana (アコ)、*Ceiba pentandra* (カボックもしくはパンヤノキ)、*Chloropphora regia*、*Anthoclesta nobilis*、*Pentaclethra macrophylla* (オバラ) *Mammea africana* (マンメア)、*Erythroleum guineense* (ムバラカ) 等が主要な樹種として出現し、森林を形成している。

上記以外にセネガルに広く分布している樹種として *Adansonia digitana* (バオバブ) がある。この樹木は果実や葉にはビタミン C などが豊富に含まれており食用とされている。また、樹皮はロープや解熱剤としても利用できるなど、利用価値が高く、地域住民からは有用樹種として活用されている。

2005 年当時の環境・自然保護省の資料によると、植生タイプ別の面積は以下の通りである。

灌木ステップ：216.0 万 ha

樹木ステップ：320.0 万 ha

灌木サバンナ：45.2 万 ha

樹木サバンナ：462.4 万 ha

疎林：224.1 万 ha

回廊林および鬱閉（うっぺい）林：3.9 万 ha

(2) 森林資源量

セネガル森林政策 2005－2025 によれば、森林は保存林と保護林の 2 つに区分される。保存林では基本的に森林資源の利用は認められていないが、一部の州では「森林整備計画」を策定すると利用が可能となっている。この他にも、指定林、植林地、自然林、国立公園、特別保護区を含み (図 II.4.1)、それらの合計は国土の 31.7%にあたる 623 万 ha である。

一方、保護林は保存林以外の森林を指し、その管理は地方自治体が担い、法律・条例に基づいた規制のもとに資源の利用が許可されている。保護林の面積は約 650 万 ha に及ぶ。

本政策は、森林資源の推移に関する、全国レベルの基礎的な森林調査・研究が不十分としつつも、地図作成業務、散発的に実施される調査、現場観察等の結果を通じ、森林面積の減少、植物多様性の低下、植生の密度低下や構成の変化、非木質系林産物生産量の減少、家畜飼料生産量の大きな変動といった森林資源の継続的な劣化・減少

が信仰していると指摘している。

FRA2010によれば、2005年に867万haあった森林面積は、2010年には847万haとなり、この間に20万ha消失し、率にして2.3%減少した。平均すると毎年およそ4万haの森林が失われたことになる。2000～2005年の年間平均消失面積は4.5万haなので、以前よりやや消失量は抑えられたが、依然として森林面積は減少傾向にあることは間違いない。

さらに期間を広げ1990～2010年でみると、毎年0.5%の割合で森林面積が失われ、20年間で87万5,000ha減少している。

(3) 減少要因

森林の減少要因としては、農地拡張のための開墾、薪炭材製造等を目的とした伐採、家畜による食害、干ばつ等が挙げられる。農地拡大の原因としては、低い農業生産性、土壌劣化、貧困および人工増加が挙げられる。植民地時代から続くラッカセイの連作により土地が疲弊、生産性が低下し、それに伴い新たな農地を獲得するために森林の伐採が続けられている。環境・自然保護省（2005年度）の報告書によると、コルダ州の「Pataの森」は、1950年に保存林として指定され、118種類以上の動植物が確認されていた。その森林面積は、当時は7万3,000haであったが、1978年以降、新たな農地獲得を目的とした開墾のために3万5,000haが消失した。

(人工造林)

セネガルでは1960年の独立以前に海岸地帯に*Casuarina equisetifolia*の造林が行われ成功している。また、南部地域ではチーク、*Gmelina arborea*、*Melaleuca leucadendron*等の造林も行われている。しかしながら造林は薪炭の造成に重点がおかれ、1980年頃からは*Eucalyptus camaldulensis*を主とする薪炭林造成プロジェクトが発足したが良好な成績を得ることができなかった。

そこで政府は、住民の協力をえて5ha程度の小面積の薪炭林を造成する方針に転換し、住民に苗木を無償配布し、住民が植え付け・保育し、収穫材も住民に与える方式を採った。造林は大部分アグロフォレストリーにより実施された。

FRA2010によると人工林面積は46.4万haあり、年間の造林面積は約11千haとなっている。主要な造林樹種はユーカリ類、乾燥に強いアカシア類等である。

なお、*Acacia senegal*は乾燥に強く、乾燥地のアグロフォレストリー或いは浸食防止に用いられる。また、樹液（アラビアガム）はビール醸造、菓子の製造、製菓等に使用される。

<主要造林樹種>

- ・ *Faidherbia (Acacia) albida*
- ・ *A. senegal*
- ・ *Anacardium occidentale*
- ・ *Azadirachta indica*
- ・ *Borassus aethiopum*
- ・ *Cassia siamea*
- ・ *Casuarina equisetifolia*
- ・ *Eucalyptus camaldulensis*
- ・ *E. microtheca*
- ・ *Gmelina arborea*
- ・ *Khaya senegalensis*
- ・ *Prosopis juliflora*
- ・ *Tectona grandis*

(天然林施業)

この国の燃料消費の60%以上が、薪炭で占められており、その主たるものは木炭として消費されている。セネガルの天然林の多くは、乾燥した地域の劣化した疎林が多く、その主たる施業は薪炭材の生産に向けてのものである。

また、建築材も同様に重要な森林生産物である。

(林産業)

FAOのデータによると、丸太生産量は2006～2010年において、2006年の610万m³から毎年約3万m³ずつ増加し、2010年には622万m³に達している。輸出は2008年、2009年は無く、2010年に1,000m³あるだけで、セネガルで生産される丸太は、ほぼ国内向けであるといえる。一方、輸入されたものは2006年、2007年は共に2万3,000m³、それ以降は減少し、2010年は4,000m³に留まっている。

薪炭材の生産量は2006年の530万m³であり、これは同時期の年平均丸太生産量全体の87%を占めている。工業目的の丸太生産量は、統計上は2006～2010年の間で

変化はなく、毎年79万4,000m³が生産されている。これらは全体の13%に相当する。このうち製材、枕木、板材用は4万m³、その他の工業用途用（薪炭目的は除く）が75万4,000m³となっている。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	4,408	4	—	520	524	4,932
1990	4,687	40	—	598	638	5,325
1995	4,908	40	—	680	720	5,628
2000	5,114	40	—	754	794	5,908
2006	5,306	40	—	754	794	6,100
2010	5,427	40	—	754	794	6,221

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m³、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	0.4	150.9	0.1	—
製 材	7.0	3,961.3	0.1	78.9
合 板	0.9	792.2	0.1	114.4

出典：1. JICA, 2007, 「セネガル共和国 沿岸地域植林計画（2/2期）事業化計画」

2. JAICAF, 2013, 国別統計シリーズ No.81 「セネガル・農林業」